栄養治療実施計画 兼 栄養治療実施報告書

患者氏名		患者ID		性 : 男•女	年齢	歳	入院日	年	月	日
病棟		主治医		NST患者担当者			初回回診日	年	月	日
NST回診 実施者名	医師		看護師		薬剤師		管理栄養士			
NST回診 実施者名	歯科医師 歯科衛生士		臨床検査技師		PT・OT・ST MSWIまか		NST専従者 氏名			
現疾患			褥瘡	なし あり()	嚥下障害	なし あり()	前回回診日	年	月	日
その他の 合併疾患 ^{※1}			感染症	なし あり()	社会的問題点	なし あり()	回診日	年	月	日
身長	cm	現体重	浮腫 有□ 無□ kg	BMI:	標準体重 (BMI=22)	kg	通常時体重			kg
栄養評価	主観的栄養評価	アルブミン (g/dL)	リンパ球数 (/mm³)	ヘモグロビン (g/dL)	中性脂肪 (mg/dL)	トランスサイレチン (TTR:プレアルブミン) (mg/dL)		総合評価 (栄養障害の程度)		
	検査日 月 日 良・普通・悪		検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	検査日 月 日	良・軽度・中等度・高度		
前回との比較	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪	改善・不変・増悪 改善・不変・増悪		惠
栄養管理法										
経口栄養	□ 普通食 □ 該当無し □ 咀嚼困難食 □ 嚥下調整食 □ 学会分類コード:() □ 濃厚流動食・経腸栄養剤		経腸栄養 ^{※2}	□ 該当無し □ 経鼻(□ 胃瘻(□ 腸瘻()) 栓静脈宋養		□ 該当無し ICC・リザーバー)		
栄養投与法の推移(前回との比較) (例:経腸栄養 → 経口栄養、経口栄養 → 中心静脈栄養) □無										
投与組成・投与量(該当無しの場合口にチェックを入れること)										
	水分量 (ml/日)	エネルギー (kcal/日)	たんぱく質・アミノ 酸(g/日)							
前回栄養管理 プラン※3	□無	□無 	□無	□無	□無	□無	□無 	□無		
実投与量	□無 	□無 	□無	□無	□無	□無	□無	□無		
投与バランス ** ⁴	無	無	□無	無	□無 	□無 	□無	□無		
新規栄養管理 プラン	無	□無 	□無	□無	□無	□無	□無	□無		
栄養管理上の 注意点・特徴 ※5										
活動状況・評価										
他チームとの 連携状況	摂食嚥下チーム (あり なし)		褥瘡対策チーム (あり なし)		感染対策チーム (あり なし)		緩和ケアチーム (あり なし)	その他のチーム (チーム)		
治療法の 総合評価 ^{*6} 【 】 ①改不要 ②増悪	2. 血液字的栄養評価: 改善度 5・4・3・2・1 (改善項目:) 3. 摂食・嚥下状態: 改善度 5・4・3・2・1 4. 褥瘡: 改善度 5・4・3・2・1 5. 感染・免疫力: 改善度 5・4・3・2・1 6. 変 7									

- ※1: 褥瘡・嚥下障害・感染症以外で、栄養管理に際して重要と思われる疾患を優先的に記載すること。
- ※2:投与速度と形状(半固形化の有無など)を含めて記載すること。
- ※3:初回時には記載を要しない。
- ※4:必要に応じ患者及び家族等に確認し、提供している食事・薬剤のみではなく、間食等の状況を把握した上で、体内へ入った栄養量を記載するよう努めること。
- ※5: 栄養管理の上で特に注意を要する点や特徴的な点を記載すること。
- ※6:栄養療法による効果判定を総合的に行うこと。【 】内には、①~③のいずれかを記載すること。
- ※7:評価項目中変化があった項目を選択し、程度を「5:極めて改善」「4:改善」「3:不変」「2:やや悪化」「1:悪化」の5段階で記載すること。また、改善項目の詳細も記載すること。なお、必要に応じて項目を追加しても構わない。
- ※8:治療評価時の状況として「入院中」「転院」「退院」のうちいずれか一つを選択し、栄養治療の効果についての補足事項や詳細を記載すること。特に、「転院」又は「退院」の場合にあっては、患者及び家族に対して今後の栄養管理の留意点等(在宅での献立を含む。)について丁寧な説明を記載するとともに、転院先又は退院先で当該患者の栄養管理を担当する医師等に対し、治療継続の観点から情報提供すべき事項について記載すること。